

2018年8月1日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

関東学院大学でA Iスピーカーに関する講義を実施 ～デジタルネイティブ世代対応の新たな取組み～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（以下「損保ジャパン日本興亜」）は、デジタルネイティブ世代のA Iスピーカーの活用可能性について探り、新商品やサービス開発に活かすため、「A Iスピーカーの可能性」と題し、関東学院大学で講義形式・ディスカッション形式の授業を7月6日（金）に実施しました。

1. 授業の背景・目的

近年、デジタル技術の普及や若者の価値観の多様化に伴い、新しいコミュニケーションツールとしてA Iスピーカーに高い関心が集まっています。また、デジタルネイティブ世代の情報ツールやデバイスの利用は年々変化しており、企業の中長期的な成長のためには、将来主要な顧客層となりうるデジタルネイティブ世代を捉えた商品・サービスの開発を重要なテーマとしています。このため、関東学院大学の折田准教授のクラスでの授業を通じ、デジタルネイティブ世代の約80名の学生の生の声・インサイトに触れ、この世代に対応した商品・サービスの開発につなげるため、新たに産学連携の取組みを開始しました。

2. 参加した学生の声

- ・ 「悩みやちょっとしたことを話すとA Iスピーカーが応対してくれるというのはうれしい。人間っぽさがあるというのが親しみを感じる。」
- ・ 「保険の話は個人的には難しい話が多く、あまり積極的に関わろうとは思わなかったジャンルなので、A Iという機能を使って保険をもっと身近に、分かりやすく伝わりやすく広めて行くことは良い考えなのではと思った。」
- ・ 「高齢者の家であれば、電話などの扱いが難しい人も話しかけるだけで誰かと連絡が取れるのでとても便利だと思った。」
- ・ 「入院していて会話する相手がいない子どもや高齢者の方の話し相手など、いろいろな使用方法があると思った。」
- ・ 「A Iスピーカーが家庭内や家の中で普及することによって、私たちより上の世代、インターネットに触れてこなかった世代も新しい時代の技術と共に生きていけるのではないかと感じた。」





3. 今後について

SOMPOホールディングスグループは、お客さまの「安心・安全・健康」な暮らしをひとつなぎで支えるため、デジタル技術を活用してお客さまとの接点を拡大し、その接点で、お客さまに便利に、安心して、楽しくサービスを受けていただくことを目指しています。

損保ジャパン日本興亜は、今回の講義を通じて獲得したデジタルネイティブ世代の生の声・インサイトから、さらなるサービスの拡充を図り、お客さまの利便性や快適性の向上に努めていきます。

以上